

日本財団「海と日本プロジェクト2016サポートプログラム」助成事業

「西の堺 東の酒田」湊町復活（リバイバル）事業
実施報告書

「海の日」記念事業実行委員会
（山形県酒田市）



【概要】

- ・酒田港の概要
- ・日本財団助成事業(西の堺 東の酒田湊町復活事業)

【個別事業】

1. 地元漁業者の協力による漁業体験と地魚等の講義～海と日本プロジェクト～
2. 海岸での古来塩づくり体験教室～海と日本プロジェクト～
3. 海と発電の関わりに関する勉強会～海と日本プロジェクト～
4. 水中綱引き大会～海と日本プロジェクト～
5. 貝殻マリンアート(貝殻ミニ盆栽づくり)の制作ワークショップ～海と日本プロジェクト～
6. 海の安全・安心教室～海と日本プロジェクト～
7. 山形県唯一の離島 飛島のまるごと体験親子教室～海と日本プロジェクト～
8. 湊町酒田「海と日本プロジェクト」写真コンテスト
9. 海から学ぶ 体験クルーズ“湊町酒田の文化と歴史”～海と日本プロジェクト～
10. 酒田港 海のお仕事探検隊～海と日本プロジェクト～
11. 海と日本プロジェクトEATBEAT in Sakata Bay～五感で楽しむ酒田の海～
12. 漂流漂着ゴミの学習及びビーチクリーン～海と日本プロジェクト～
13. 大浜海岸ビーチイベント「酒田ビッグビーチフェスタ2016」～海と日本プロジェクト～

【事業実績】

- ・成果(全体・個別事業)



酒田港の概要①



酒田港の概要②

酒田港は山形県を縦貫する最上川の河口に位置する港で、古くから日本海側沿岸や内陸河川交通の要衝として発達、1672年の河村瑞賢により西回り航路が開拓されると酒田港はさらに栄え、江戸期嘉永・安政年間には、多くの豪商が軒を並べ、酒田港は全盛を迎えました。その後、河川の氾濫や流出土砂の影響により、船舶の大型化に対応できず、次第に衰退しましたが、航路改良・治水工事などの先人たちの努力により悪条件を克服しました。さらに、1970年代からの北港地区の開発、2000年代の国際ターミナルの供用と酒田港は時代に対応した開発、利用振興を進めています。



江戸期活躍した北前船
(写真は千石船を
1/2モデルで再現したもの)
【日和山公園】



明治初期に建てられ、
米の倉庫として現在も現役の
『山居倉庫』
倉庫の一部は現在、
観光施設(夢の倶楽)に



【本事業の目的】

室町時代から江戸時代にかけて、酒田や大坂（現在の大阪）の堺では商人たちが自治的な都市運営を行い、中世の自治都市として繁栄を極め、『西の堺 東の酒田』と謳われ、いずれも日本を代表する湊町でした。

これらの歴史や伝統の背景にあった「海との多様なつながり」について、その恩恵や価値を現代において改めて認識するとともに、今後これらの財産を次の世代を担う子供たちに伝え引き継いでいくことや新たな魅力や付加価値を創造することを目的に各種事業を実施しました。



北前船で運ばれた関西好みの顔立ちをした‘京雛’の雛人形が今も大切に保存されている。



江戸時代、河村瑞賢が西回り航路を確立。北前船による交易の隆盛により、酒田は堺や博多と同様、自治港湾都市として発展した。

日本財団助成事業（西の堺 東の酒田湊町復活事業）②

平成28年7月18日(月・祝)～9月22日(木・祝)にかけて、全13事業を山形県酒田市内で実施。全参加者数合計約12,900名

漁業体験、マリンアート、塩作り、安全教室、発電の勉強会、水中綱引き



マリンアート



塩作り体験

湊町酒田写真コンテスト



EATBEAT(イートビート) in Sakata Bay



海から学ぶ 体験クルーズ



酒田港 海のお仕事探検隊



漂流漂着ゴミの学習と ビーチクリーン



酒田ビッグビーチフェスタ2016



山形県唯一の離島 飛島まるごと体験親子教室



1. 地元漁業者の協力による漁業体験と地魚等の講義①

(目的)

宮海海水浴場のある宮海地区では、昔、地引網漁が盛んに営まれていましたが、現在はほとんど姿を消してしまいました。結果、地元の子供たちの多くが地元で捕れる魚を全く知らないまま生活をしています。幸い、地域には地引網漁に携わった人々が健在であるため、その方々の協力を得て、実際の漁業体験を通じて、地元の海の素晴らしさや大切さを学んでもらうことを目的に開催しました。

(開催日)

平成28年7月18日(月・祝)、7月31日(日)



「地元漁業者の協力による漁業体験と地魚等の講義」には多数の方が参加



かつて地引網漁を行っていた地元の方々の指導の下、網を引く参加者たち



参加者全員で記念撮影

1.地元漁業者の協力による漁業体験と地魚等の講義②

(内容)

開催前日の夕方に刺し網を仕掛け、イベント当日に参加者から刺し網に繋いだ綱を岸まで引き寄せ、刺し網漁を体験していただきました。

地魚等の講義では、会場を海水浴場内の休息テラスに移動し、漁で獲れた魚の特色を講師から紹介いただいた他、山形県漁業協同組合に水揚げされた全ての魚の図鑑やパンフレットを使用して季節ごとの魚の種類・特色や山形県沿岸の漁法などを学習しました。

(参加者数)

18日:12組(26名) (参考)漁業体験のみ参加者数115名

31日:10組(24名) (参考)漁業体験のみ参加者数 83名



地引網で獲れた地魚たち



地元漁師の方から地魚の説明を受ける



子どもたちによる地魚のスケッチを実施

2.海岸での古来塩づくり体験教室①

(目的)

かつて塩づくりが盛んだった庄内浜(山形県)で、昔ながらの加熱直煮蒸発製法による塩作り体験を通じて、人が生きてゆく上で欠くことのできない塩と「海との関わり」を学んでもらうために開催。

(開催日)

平成28年7月24日(日)、8月11日(木・祝)



特設の平釜で海水の水分を蒸発させる



「海岸での古来塩づくり体験教室」で塩ができるまでの工程を学ぶ



参加者で記念撮影

2.海岸での古来塩づくり体験教室②

(内容)

事前準備として、海水をポンプで汲み上げた後、トラックを使って会場に運び、平釜に海水を移して薪を焚き海水を沸騰させながら、16時間かけて徐々に海水を濃縮させておきました。

イベント当日は、写真パネルを使って、塩が出来上がるまでの7つの工程を説明した後、再び釜を焚き、塩の結晶が姿を現したところで参加者がタモですくい上げました。蒸発し、水分を少し含んだ結晶はキラキラと輝き、真っ白な塩をすくい上げた子どもたちの眼差しもキラキラと輝いて、“スゴイ”、“超キレイ”など感動の声が鳴りやみませんでした。出来上がり前の塩を試食させたところ、“ニガしょっぱい”の大合唱。「ニガリ水」切り装置の箱に入れ、水をきって塩を焼き上げ、再び試食した子どもたちは、“甘い”、“旨い”と感動しながら塩の変化を味わいました。最後に出来上がった塩を使ったおにぎりなどを参加者全員で味わいました。

(参加者数)

7月24日:5組13名、8月11日:14組37名



出来上がった塩をすくい取る子どもたち



作業するその目は真剣そのもの



出来上がった塩を使ったおにぎりを
参加者で試食

3.海と発電の関わりに関する勉強会①

(目的)

私たちの毎日の暮らしや文化、産業の発展に欠かすことのできない電気を作る仕組みの中で、海がどんな役割を果たしているのかを知ってもらうことを目的に開催しました。

(開催日)

平成28年7月24日(日)、8月11日(木・祝)



施設「あかりん館」内の展示物で遊びながら発電の仕組みを学ぶ



映像を見ながら海と発電の関わりについて理解を深めた



酒田共同火力発電所の職員の方による説明

3.海と発電の関わりに関する勉強会②

(内容)

酒田共同火力発電株式会社の施設「あかりん館」で、発電の仕組みについて職員の方から説明していただきました。その後、蒸気圧力を作るボイラーで水を沸かすための主燃料となる石炭が大量に貯蔵されている巨大な貯炭場を見学しました。

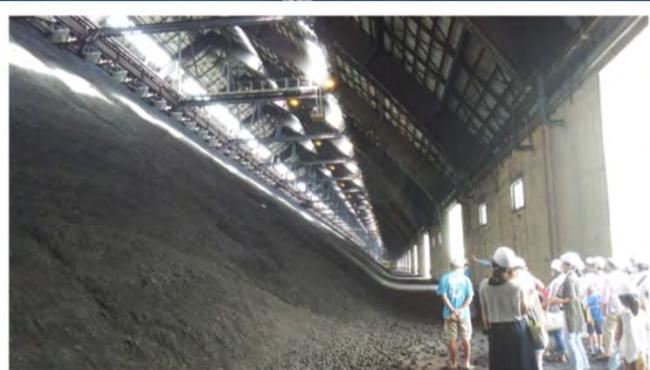
その他、酒田港北港地区周辺の風力発電や太陽光発電、バイオマス発電について、リーフレットなどを使用して紹介。

(参加者数)

2回合計 14組37名



展示物に夢中の子どもたち



燃料の石炭を保管する貯炭場で
石炭の山を見学



「あかりん館」の前で記念撮影

4.水中綱引き大会①

(目的)

普段は陸上で行う綱引きを、水中で、しかも浮力の大きい海の中で行うことにより、これまでに体験したことのない感覚を味わうことで、海で活動することの楽しさを体感してもらうことを目的に開催しました。

(開催日)

平成28年7月30日(土)、7月31日(日)



取材を受ける参加者



水中で綱を引く参加者①



水中で綱を引く参加者②

4.水中綱引き大会②

(内容)

普段は遊泳エリアとして利用している海水浴場の一部を利用し、子供も大人も一緒に楽しんで遊ぶことができる水中綱引き大会を企画。

遊泳エリアの浅くなっている場所に競技場を設け、1チーム5人編成のトーナメント方式で優勝を争いました。

参加者たちは海水の浮力で体が浮き上がることに悪戦苦闘しながらもチーム一丸となって綱を引っ張り合いました。

優勝者らには、景品として地元海産物の詰め合わせなどを贈呈しました。

(参加者数)

30日:8チーム40名、31日:9チーム45名



水中で綱を引く参加者③



賑わう宮海海水浴場(酒田市)で実施



賞品を手に記念撮影

5.貝殻マリンアート（貝殻ミニ盆栽づくり）の制作ワークショップ①

（目的）

海岸や海水浴場での貝殻等を使ったマリンアートに取り組むことにより、新たな視点での海の魅力を創造することを目的に開催しました。

（開催日）

平成28年7月18日（月・祝）、23日（土）、24日（日）、30日（土）、31日（日）、
8月7日（日）、11日（木・祝）、13日（土）



ミニ盆栽づくりに取り組む参加者①



ミニ盆栽づくりに取り組む参加者②



ミニ盆栽づくりに取り組む参加者③

5.貝殻マリンアート（貝殻ミニ盆栽づくり）の制作ワークショップ②

（内容）

貝殻ミニ盆栽づくりとして、サザエの貝殻を盆栽鉢代わりに使用して多肉植物を植え込む、誰もが簡単に作れる貝殻マリンアートの制作ワークショップを開催しました。

海水浴の合間に少しの時間で簡単にマリンアートができることから、特に小学生の女の子やそのお母様方に大変好評でした。親子で作上げたマリンアートは酒田の海の素敵な思い出として、いつまでも心に残るものとなりました。

（参加者数）

全日程合計 63名



製作した貝殻ミニ盆栽と記念撮影①



製作した貝殻ミニ盆栽と記念撮影②



製作した貝殻ミニ盆栽と記念撮影③

6.海の安全・安心教室①

(目的)

心臓マッサージやAEDの使用方法、海を安全に楽しむための方法等について学ぶことで、万が一の海での事故に対応できる知識の習得と海の安全・安心に対する意識の向上を目的に開催しました。

(開催日)

平成28年7月17日(日)、24日(日)、31日(日)、8月6日(土)、11日(木・祝) 全5回



AEDと心臓マッサージの実技指導を受ける参加者



子供たちによるライフガードの体験学習



櫓から無線で通信する参加者

6.海の安全・安心教室②

(内容)

心臓マッサージやAEDの使用方法といった心肺蘇生術の他、救助ボードの取り扱いや溺れている人がいないか監視する技術についてライフセーバーから直接指導していただきました。救助用具等は実際に宮海海水浴場の監視施設で使用されているものを使い、参加者は海の安全を守る実際の現場を体験することができました。

(参加者数)

全5回合計 123名



浮き具の装着を練習中



心臓マッサージを学べる心肺蘇生のトレーニングキットを参加者に配布



レスキューボードに乗り海の上をパドリングで進む

7.飛島まるごと体験親子教室①

(目的)

山形県唯一の離島である飛島全体をフィールドとして、古くから島の生活の根幹となっている海とのつながり(環境、伝統、文化等)を島民の皆様や関係者の方々から指導いただき、交流する中で海の持つ役割やその価値について考えてもらうことを目的に開催しました。

(開催日)

平成28年7月30日(土)～31日(日) 1泊2日



海中の様子をシュノーケリングで観察



島内で観察できる固有種の草花を観賞

7.飛島まるごと体験親子教室②

(内容)

山形県唯一の離島・飛島を舞台とした地域体験・環境ツアーを実施。島の産物を使った食事作りや島内散策、星空観察など、離島ならではの地域体験プログラムの他、環境体験プログラムとして、飛島の西海岸に漂着している海のゴミを回収し、漂流漂着物の現状について体験を通じて学習しました。

島内の案内は合同会社とびしまより協力いただき、春夏秋冬を飛島に暮らし、住民として地域の仕事や行事にも参加している同社所属の「とびしまコンシェルジュ」より案内いただきました。

(参加者数) 5組15名



離島飛島とを結ぶ定期船「とびしま」の前で



飛島名物「イカの一晩干し」の製作体験

8. 湊町酒田「海と日本プロジェクト」写真コンテスト

(目的)

湊町酒田及び庄内地域の沿岸部で撮影された「海」にまつわる作品を通して、湊町酒田及び海に対する意識の醸成、啓発を目的に実施しました。

(内容)

コンテストには酒田市内外から25作品の応募があり、国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所長賞、山形県港湾事務所長賞、酒田市商工観光部長賞をそれぞれ選定しました。その後、7月30日から8月17日にかけて、さかた海鮮市場1階にて展示会を実施。多くの方々から作品を鑑賞していただきました。

(成果)参加者数:応募者 25名 展示会 約11,000名(観覧者数)



写真コンテスト入賞作品
「酒田港夕景」



写真コンテスト入賞作品
「五月の浜辺」



人気観光施設「さかた海鮮市場」にて展示会を実施

(目的)

シーカヤックを移動手段として、海面から酒田市の街並みや海岸、酒田港の施設等を普段の生活とは異なる角度から見学してもらうことで、「海とのつながり」について新たな発見や考えを深めてもらうことを目的として開催しました。

(開催日)

平成28年7月31日(日)



快晴の空の下、色とりどりの
シーカヤックが並ぶ



酒田港本港地区の中を
日本海に向かって進む



海上保安庁の船も
参加者を見守る

(内容)

酒田港と酒田市内を流れる新井田川等の水域をコースにシーカヤックで周遊するイベント。開催当日は気温が高く、厳しい条件となったものの、普段は見ることができない水面からの酒田市の景色の中、初心者は約2時間のコースを、上級者は4時間近くかけてコースを巡り、シーカヤックでのクルーズを楽しみました。途中、海上保安庁の船に見守られながら、イベントも無事に終了することができました。

(参加者数)

44名



酒田市の名所「山居倉庫」の横をシーカヤックが進む



酒田港から市内を流れる川に向かって遡上



無事にゴールを迎えた参加者たち

10.酒田港 海のお仕事探検隊①

(目的)

酒田港周辺における海の仕事に関する施設等(船舶、港湾施設、荷役等)の現場見学を実施し、海に関する興味・関心を高めることで将来の海事人材の確保に貢献することを目的に開催しました。

(開催日)

平成28年8月22日(月)



酒田港湾事務所での
酒田港の説明の様子



花王株式会社酒田工場で
製品ができるまでを学習



コンテナ詰めされる倉庫の
前で記念撮影

10.酒田港 海のお仕事探検隊②

(内容)

酒田市内の小学生ら34人が参加し、国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所で酒田港についての学習後、花王株式会社酒田工場にて、地元の酒田工場でどのような製品がつけられているかの説明と実際に製品を製造している施設を見学し、製造された製品が海外に輸出されるまでの製品の保管、運搬、酒田港国際ターミナルでのコンテナ荷役作業まで一貫して見学しました。

地元にある工場で作られた製品が、同じく地元にある港からすぐに世界各地へ運ばれていくこと、大きい機械やたくさんの作業車での作業を子供たちは目を大きくして見学していました。

(参加者数)

酒田市内の小学生 34名



テレビ局のインタビューを受ける参加者



コンテナ詰め作業について 倉庫内で学習



酒田港国際ターミナルでの 荷役作業を見学

1 1.EATBEAT in Sakata Bay～五感で楽しむ酒田の海～①

(目的)

酒田の海の幸を食材の中心に据え、調理音をその場で録音、編集し楽曲にするライブパフォーマンス＝「EATBEAT(イートビート)」。美味しいものを待っている時間さえも、素敵な音楽に変えて味わってしまう、そんな五感で楽しみながら海と食と向き合う時間を紡ぐことで新たな視点での「海との関わり」を創造することを目的に開催しました。

(開催日)

平成28年8月23日(火)



できあがった特別料理を前に
スタッフで記念撮影



料理の配置デザインは
地元をイメージして作成



地元の鮮魚を使った
料理の数々が会場に並んだ

(内容)

東北で初めてとなった食と音楽の融合イベント「EATBEAT(イートビート)」。会場では、新鮮なお刺身のお造りや海鮮ちらし寿司、メインテーブルには、地元海産物に加えて、在来作物のゴドイモのポテトサラダを“日本百名山”に数えられる地元の鳥海山に見立てて盛り付け、キュウリのピクルスや唐揚げで“日本三大急流”の一つである最上川の流れを表現するなどアートな逸品も用意されました。また、会場で参加者が人参スティックをかじる音、タマネギを切る音や庄内豚を焼く音など「食」にまつわる音をライブで収録し、即興で演奏するパフォーマンスも行われました。

約100名の参加者は、おいしく盛り付けられた料理を見て、食べて、調理音を聞いてと、「五感」を使って、食材まるごとを味わっていました。

(参加者数) 約100名



調理音を録音するスタッフ



食材をかじる音も録音



集めた音をその場で編集し音楽に

1 2.漂流漂着ゴミの学習及びビーチクリーン①

(目的)

海岸に漂流漂着するゴミの7割は河川を通じて集まってくると言われています。

今回のイベントでは、海岸でゴミを回収し、その内容を日々の生活が海の環境に及ぼす影響や海の環境のために自らできることについて考える機会を提供することを目的に開催しました。

(開催日)

平成28年9月4日(日)



参加者で記念撮影



海岸に落ちているゴミを拾う参加者

1 2. 漂流漂着ゴミの学習及びビーチクリーン②

(内容)

酒田市大浜海岸に流れついたり捨てられたりしていた漂流漂着ゴミなどを約1時間、回収しました。

今回の清掃活動は9月22日に開催された大浜海岸ビーチイベント「酒田ビッグビーチフェスタ2016」のプレイベントにも位置づけられ、参加者たちは大浜海岸にあるゴミの多さに驚きながらも、イベントの安全と成功を願い清掃活動に取り組んでいました。

実施にあたっては、普段から大浜海岸をはじめとする酒田港等で清掃活動を行っているNPO法人庄内海浜美化ボランティアにご指導いただき、事故や怪我もなく無事終了することができました。

(参加者数)

約100名



地元NPO団体が全面協力



海岸に散乱していたゴミ



集めたゴミは酒田市が回収し処分

1 3.酒田ビッグビーチフェスタ2016①

(目的)

広さや砂の質、市街地からの距離など、好条件は揃っているもののこれまで利用されることの少なかった大浜海岸を活用して、海の賑わい創出と良好な海浜環境を保全・維持していくための意識醸成・啓発を目的に開催しました。

(内容)

当日はビーチバレーボール大会の他、はだしになって汗を流し家族愛を深めることを目的とした「家族対抗はだし運動会」、元全日本男子バレーボール主将で、現在は堺ブレイザーズアドバイザーの中垣内祐一氏(次期男子バレーボール日本代表監督)をはじめとするトップアスリートたちとの交流、地元酒田市にある株式会社プレステージ・インターナショナル山形女子バレーボールチーム「アランマーレ」との交流、地元と大阪府堺市の海産物を使ったグルメ交流、熱中症対策の啓発活動としてスイカを振る舞う「給スイカ」ステーションなどを実施しました。



世界チャンピオンに挑戦！
「ビーチフラッグス競争」



堺ブレイザーズで活躍した中垣内氏を招聘
大阪湾で獲れた海産物を使った物販を実施



大海原に漕ぎ出そう！
「シーカヤック乗船体験」

1 3.酒田ビッグビーチフェスタ2016②

(内容)

時折雨が降るあいにくの天候となりましたが、来場者はビーチバレーボール大会や家族対抗はだし運動会などで汗を流したり、海産物に舌鼓を打ったり、思い思いの方法で大浜海岸でのイベントを楽しみました。

最後には、参加者・スタッフ全員で会場のクリーンアップ活動を実施しました。

(参加者数)

約1,200名



アスリートから心肺蘇生法を学ぶ
「いのちの教室」



浜辺を‘はだし’で駆け回り家族愛を育む
「家族対抗はだし運動会」



熱戦に次ぐ熱戦！中学生も大活躍！
「ビーチバレーボール大会」

【成果】(全体を通じて)

- ・全体としては、酒田市内外から非常に多くの参加者に参加いただくことができ、「海とのつながり」を考える機会を多く提供することができました。
- ・堺市関係者や東京のNPO関係者等、地理的には遠い団体と連携して事業を実施することにより、地元のみならず、様々なアイデアを反映させて事業に広がりを持たせることができました。
- ・短期間で複数の事業を実施したことにより、周知・広報を複数の事業をまとめて実施することができました。
- ・高校や大学、NPO等の民間団体等、関係者と協力して実施する事ができ、今後の継続した事業展開の土台となる組織を作ることができました。
- ・水中・水上でのイベントが含まれるものが多かったものの、救助スタッフや必要な救命具等を予め準備し、事故無く終了することができました。（加入した保険の執行も無し）



【成果】

（個別事業について）

1. 地元漁業者の協力による漁業体験と地魚等の講義

- ・子どもたちは網に掛かった魚が次々と水の中から顔を出す瞬間に大きな歓声を上げていました。魚を網から外したり蟹に触ったりしては満面の笑みを作って、海の恵みを満喫。海の思い出を作り、海との繋がりを感ずることができました。
- ・獲れた魚のスケッチでは子どもたちが思い感じたまま、魚の姿を自由なタッチで描いていました。講師の漁師の方の講義では、難しい内容になると、子どもたちは何度も保護者に聞き直して、興味の高さがうかがえました。この講義では家族の絆づくりの機会も提供できました。
- ・蟹汁の試食会では、目の前で獲れた海産物を直接味わうことにより、地元の海に対する関心を更に深め、海の大切さや恵みのありがたさを知っていただくことができました。



【成果】

（個別事業について）

2. 海岸での古来塩づくり体験教室

・目の前で海水の中から出来上がっていく塩の結晶の輝きが綺麗で、初めて見る子どもたちは「スゴイ」、「超キレイ」などと感動の声を上げていました。また、仕上げ前の塩をなめさせたところ、「苦くて塩辛い」の声が発。 「ニガリ水」切り装置（箱）に入れ、水をきり、塩を焼き上げ、再び塩をなめた子供たちは、「甘い」、「旨い」と感動しながら塩の変化を味わいました。

今回の事業では普段は何気なく口にしている塩が作られる工程について、実際に見てもらうだけではなく、経過によって変化する味を確かめてもらうことで、海への興味や関心を更に抱かせる良い経験となりました。

3. 海と発電の関わりに関する勉強会

・参加者は、海を渡って世界各地から石炭専用船で港まで運んだ石炭が使われているために、火力発電所が海の側に立地していることや、海は大量の物資を運ぶ船の広大な「道」の役目を果たしていること、電気を作った後で海水が蒸気を冷やして元の水に循環させる働きをしていることなどを、映像や実際の貯炭場の見学から学びました。本事業では学校の勉強とは違った形での良き社会勉強として、強く印象に残るものとなりました。



【成果】

（個別事業について）

4. 水中綱引き大会

- ・水中綱引きという新たな遊び方を提案することで、海で遊ぶことの楽しさを提供することができました。
- ・家族や友人といった単位で参加し、一本の綱を一生懸命に引っ張り、それを応援することで家族や友人同士といった人と人の絆作りに大いに貢献したイベントとなりました。

5. 貝殻マリンアート（貝殻ミニ盆栽づくり）の制作ワークショップ

- ・海水浴の合間に少しの時間で簡単にマリンアートができることから、特に小学生の女の子やそのお母様方に大変好評でした。親子で作り上げたマリンアートは酒田の海の素敵な思い出として、心に残るものになりました。

6. 海の安全・安心教室

- ・参加者に心肺蘇生術、救助ボードの取り扱い、遊泳者動向監視技術を指導し、身に付けていただくことができました。



【成果】

（個別事業について）

7. 山形県唯一の離島 飛島のまるごと体験親子教室

- ・飛島は定期船で片道70分かかり、酒田市民であっても行ったことが無い人も少なくありません。また、現在はこれまで市内小学校が行っていた飛島への体験教室も行うところが少なくなり、飛島を訪問する機会が更に減少していました。飛島に行ってみたいと思う市民が多い一方で、行くためのきっかけが無いという声も多く、今回の事業が飛島訪問の良いきっかけとなったとの声をいただきました。
- ・飛島での活動、特に、透明度の非常に高い海水の中でのシュノーケリングや浜辺の遊び、島の海産物を使った料理体験など、飛島ならではの体験を数多く子どもたちに経験していただくことができ、参加者からは喜びの声を多数いただきました。

8. 湊町酒田「海と日本プロジェクト」写真コンテスト

- ・応募作品は素晴らしい作品が多く集まり、レベルの高いコンテストとなりました。
- ・展示会を通じて多くの方から酒田港や庄内浜等の「海」にまつわる写真作品を観覧いただきました。（約11,000人）
- ・会場となった「さかた海鮮市場」は、市内でも有数の観光施設となっていますが、海に関する写真の展示会を実施することで新たな魅力を提供できました。



【成果】

（個別事業について）

9. 海から学ぶ 体験クルーズ“湊町酒田の文化と歴史”

- ・港湾区域と河川区域を利用して市内を周遊するという全国でも大変珍しいイベントとなっており、参加者には大変好評でした。
- ・イベントを知らずにシーカヤックを見かけた人も興味深く見ているなど、話題性があり、シーカヤックに対する興味が沸ききっかけとなったものと思われます。
- ・海上保安庁にも協力いただくなど、官民での連携により実施が困難と思われる事業内容についても安全に実施できる体制ができました。

10. 酒田港 海のお仕事探検隊

- ・地元にある工場で作られた製品が、同じく地元にある港からすぐに世界各地へ運ばれていくことに子供たちの興味・関心が高く、今回の見学会を経て海の仕事に対する意識が芽生えたように感じました。
- ・製造された製品が海外に輸出されるまでの製品の保管、運搬、酒田港国際ターミナルでのコンテナ荷役作業まで一貫して見学するルートを確立することができました。今後のモデルルートとして小学校の総合学習等に活用できると考えています。
- ・子どもたちに興味を持ち、喜んでもらったことで、現場で説明いただいた海の関係して働いている方々の喜びや満足度にもつながるものとなりました。



【成果】

（個別事業について）

11. EATBEAT! in Sakata Bay ～五感で楽しむ酒田の海～

- ・東北初開催ということもあり、参加者全員初めてのEATBEAT！体験となりましたが、海の音や風の音、料理音などを駆使したパフォーマンスと綺麗に並べられたアートな逸品を目や耳で味わう斬新なスタイルに参加者は興奮していました。
- ・メンバーのほとんどが大阪在住ということもあり、事前の準備段階で酒田の海産物や在来作物に非常に興味を持たれていました。初めて使う食材もありましたが、色々なアレンジで使用していただき、地元の間人も気づかなかった新たなアイデアを示していただきました。

12. 漂流漂着ゴミの学習及びビーチクリーン

- ・約1時間の作業で多くの漂流漂着ゴミを回収することができました。
- ・海岸清掃を実施したことにより海浜美化の意識が醸成されたと感じています。
- ・9月22日に開催した大浜海岸ビーチイベント「酒田ビッグビーチフェスタ2016」に向けた機運醸成に繋がりました。



【成果】

（個別事業について）

13. 大浜海岸ビーチイベント「酒田ビッグビーチフェスタ2016」

- ・酒田市内でのビーチバレーボール大会には多くの方から参加いただきました。その盛り上がりから、実施に協力いただいた山形県ビーチバレーボール連盟からも、今後継続して大会を開催したい意向がありました。
- ・家族対抗はだし運動会では、家族で楽しめる運動会を通じて、家族愛を深め、ビーチを身近に感じ、海の大切さを再認識する機会となりました。
- ・トップアスリートとの交流イベントでは、ビーチバレーボール大会の優勝チームとのエキシビジョンマッチを行った他、海や砂浜に対する思いやビーチイベントへの提言などを題材にしたトークショーを実施。参加者とトップアスリートの距離が近く、参加者からは「楽しかった」「またやってほしい」などの喜びの声を多くいただきました。
- ・株式会社プレステージ・インターナショナル山形女子バレーボールチーム「アランマーレ」との交流イベントでは、地元で活躍するアランマーレの選手やスタッフたちが、来場した子ども達を中心にはだしで身体を動かすレクリエーションを行い、触れ合いを楽しみました。
- ・地元及び堺市の海産物を使ったグルメ交流では、地元酒田市では食べられることがほとんど無い大阪名物ハモを使った料理を販売し、地域によって異なる魚食文化を体験することができました。



【成果】

（個別事業について）

13. 大浜海岸ビーチイベント「酒田ビッグビーチフェスタ2016」(続き)

- ・シーカヤックの乗船体験では酒田市内小学校の特別支援学級に通う子どもたちとその保護者に事前に案内し、保安要員となるライフセーバーを多く配置するなどして、シーカヤックを安全・安心に体験してもらう機会を提供しました。その他にも、当日会場に訪れた人たちを対象にシーカヤックの乗船体験を実施し、海で遊ぶことの楽しさを味わっていただきました。
- ・大浜海岸クリーンアップでは、来場者、スタッフなど参加者全員で海岸清掃を実施。使う前よりも綺麗な海岸にすることを目指しました。参加者一人一人が海浜美化を継続し、今後もはだしで活動できる大浜海岸を維持していくことを参加者全員で共有しイベントを終えました。





海と日本 PROJECT

この度は「『西の堺 東の酒田』湊町復活（リバイバル）事業」に
対し助成いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

「海の日」記念事業実行委員会では今後も各種活動に取り組んで
まいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

「海の日」記念事業実行委員会
山形県酒田市

